



# 大杉谷国有林からの手紙



## 30通目 ～写真で振り返る平成29年度～

気がつけば、今年も春分の「雀始巢(すずめはじめてすくう)」の頃となり、平成29年度も残りわずかとなりました。

普段は、暢気そうに餌を探している雀も新しい巣を作るのに頑張っているの、私も冬眠から覚めてラストスパートです。

さて、今回は、今年度最後の手紙となりますので、写真でこの1年を振り返ってみます。

まずはじめに、今年度の私の感想、キーワードは、「空とにらめっこ」です。

平成27年に尾鷲森林事務所にきてから、3年間、大杉谷国有林に通っていますが、今年ほど、天気に悩まされた年はありませんでした。

大杉谷国有林においては、今年度も、水源地としての森林整備、シカによる森林被害対策など、多くの事業が計画されており、森林官として、進行管理を徹底し、年度内に確実に仕上げる必要があります。そのためには、雨や風や雪などで現場に行けなくなってしまうのが、一番の悩みであり、気がかりです。

梅雨時期の長雨は、この地域の特徴と言えますが、それ以上に困ったのは連続した台風の直撃により、唯一のアクセスである大台林道が被害を受けたことです。大雨により、落石が発生したり、路面が流されるなどの被害により、トラックが通れなくなり、計画していた事業を中断することが何度かありました。

また、冬には、例年になく、早い寒波の襲来に悩まされました。温暖な南紀とはいえ、1,000mを超える標高のため、降り積もった雪が氷のように固くなり、大台林道が閉ざされてしまいました。このように、改めて、大杉谷の自然の厳しさを実感する1年でしたが、関係者の皆さんのお陰で、各事業とも無事に完了することができました。



雪に閉ざされていた大台林道にもようやく春がきました！



台風によって落石が発生し、行く手を遮られました



例年に無い早い雪によって、行く手を遮られました



## (1) 水源地としての森林の整備。

森林の水源涵養機能など公益的な機能が十分に発揮できるように、計画どおりに約70ha（甲子園球場18個分）の間伐を実施しました。



連日の雨の中での造材作業



伐採した間伐木は搬出して有効利用しています

未立木地（シカの食害によって樹木がなくなってしまった箇所）の集中する地池林道終点周辺の植生回復に取り組みました。



植栽に不可欠な防鹿柵の設置



「大きくなれよ」地域性苗木を丁寧に植えています



現地の石を活用した空石積工



5月の現地検討会、意見交換を行いました



## (2) シカによる森林被害対策

実施時期を早めて取組んだ「大杉谷国有林外シカ捕獲等事業」ですが、今年は50頭捕獲し、併せて得られた自動撮影カメラのデータ等を基に、来年度に向けてより効果的な手法の検討を行うことができました。



6月に開催した現地検討会



くくりワナで捕獲したたシカ（地池林道周辺）

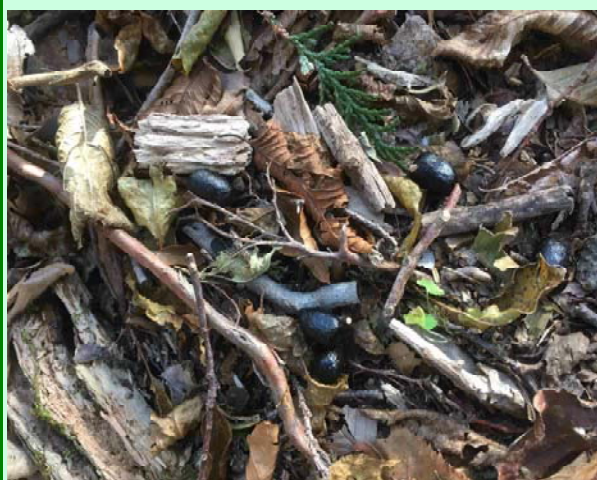


丁寧にくくりワナを仕掛ける「チーム大杉谷」

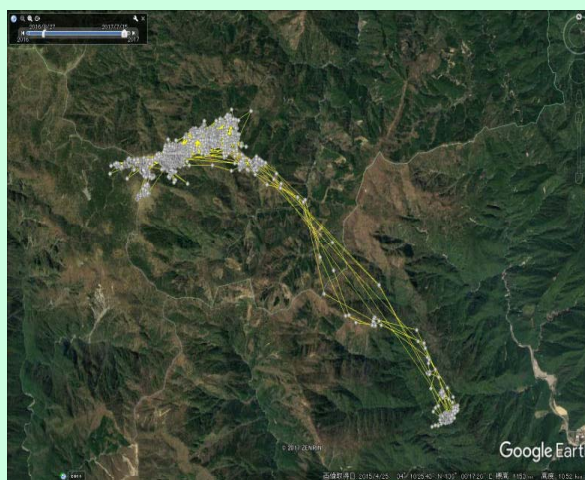


二ホンシカ森林被害対策指針実施検討委員会(2月)

平成20年度から継続中の「シカの生息状況調査（糞塊密度調査・GPSテレメトリー調査）」を今年度も実施し、さらなるデータを積み重ね、専門家や地域の皆さんの意見を聴きながら、今後の対策に反映させていくことができました。



調査で確認した糞塊、これで密度を調べます



装着したGPSで記録されたシカの行動記録



貴重なトウヒなどの天然林を守る「ボランティア参加による樹木保護活動」。  
今年も、たくさんの方々に参加いただき、晴天のもと、1日、作業を実施しました。



絶景をバックに参加者全員で記念撮影



みんなでラス巻き、一致協力

新たな取組として、奈良県との県境部におけるシカ被害の軽減を図るため、ツキノワグマの錯誤捕獲が少ないと言われる首用くくりわなを使い、上北山村と環境省近畿地方環境事務所と連携捕獲を実施しました。

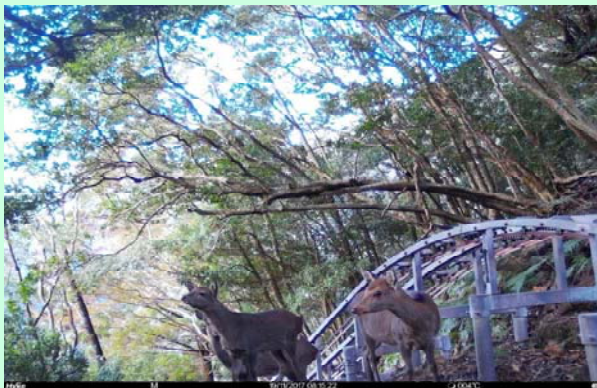


6月に上北山村で協定調印式を行いました



現地に設置した首用くくりわな

もうひとつの新たな取組として、大杉谷の越冬地である岩井谷国有林、二ノ俣国有林、平石国有林内にセンサーカメラを設置し、越冬地の状況把握を行ない、連携捕獲に向けての検討を開始しました。



岩井谷国有林で確認されたシカの群れ



越冬地に設置したセンサーカメラ



今回の手紙では、今年度の大杉谷国有林における事業について、写真を中心に振り返ってみました。今回の振り返りで、私自身が一番感じたのは、「大杉谷国有林って、私たち三重森林管理署だけでなく、本当にたくさんの皆さんのお陰で守られているだな～」ということです。

今回、ご紹介した皆さんのほかにも、地元の大台町、紀北町、三重県の皆さん、シカの捕獲や植栽などシカ被害対策でお世話になっている学識者の皆さん、大台ヶ原ビジターセンターなど奈良県の皆さん、大杉谷を訪れる登山者の皆さん、もちろん、先輩の皆さんにもいろいろと助言をいただきました。そんな多くの皆さんの思いが、この大杉谷国有林には、「たくさん詰まっているのだな～」と再確認しました。

これからも、皆さんの熱い思いに応えられるよう、また、その熱い思いを未来に繋げていけるよう全力で頑張っていきますので、引き続き応援をよろしくお願いいたします。



晴天の大台ヶ原から望む大杉谷国有林（手前はトウヒ保護のためのパッチディフェンス）





## 4月の大杉谷登山道合同安全パトロール



**(発行:三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官)**